

Human City くまもと

都市の未来

21世紀を支える人材の育成

まちのエネルギー それは人のエネルギー
人を育てる事は、まちの未来をつくる事
生涯教育がいわゆる昨今
学ぶ喜び ふれあう感動を大切に

人間性豊かな、ゆとりある学校生活の実現

今日の教育課題は、「生涯学習社会に対応する学校教育」と「豊かな心と活力に満ちた人間性の育成」の解決と、市政推進の基本理念である「活力に満ちた思いやりあふれる新しいふるさとづくり」の実現をめざして、愛情と信頼に基づく教育を推進しています。

●心豊かな人づくり

生涯にわたる人間形成をめざして道徳教育や基礎学力の充実、生徒指導の徹底、さらに郷土教育、勤労教育、愛鳥教育、環境保護教育などの推進を図っています。

また、同和教育は、すべての児童生徒に人権尊重の精神を認識させ、部落差別をはじめ、あらゆる差別をなくしていく意欲と実践力を育成するため、全教育活動を通して積極的に推進しています。

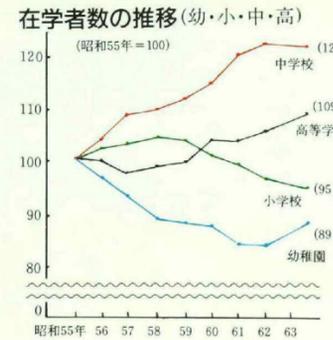
●進展する社会への対応

豊かな国際性と国際理解を深めるための、国際理解実践校の委嘱や国際理解研修会、さらには、アメリカから英語の先生を招いて、生きた英語学習などを進めています。

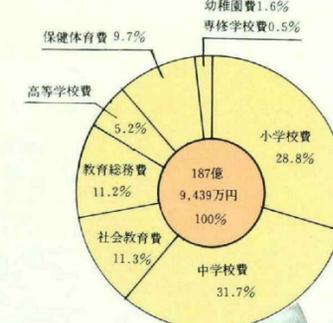
●健康づくり

基礎体力の養成とともに、心の健康を大切にする健康教育実践校の委嘱、健康優良校の育成、素足の励行や部活動の適正化など、健康習慣の形成を通して、真の健康教育を推進しています。

また、千葉城町にある教育センターでは、学校教育並びに社会教育に関する、教育課題の解決に必要な調査、研究をはじめ、教育関係者の研修、各種教育相談など指導力向上を図るための場と機会を積極的に提供し、その活用を図っています。



平成元年度教育費(歳出当初予算)



Human City くまもと

学 校 教 育



Human City くまもと
学校施設

創造性に富んだユニークな施設づくり

学校は、教育、学習の場であるばかりでなく、児童生徒が一日の大半を過ごすことから、それにふさわしい、ゆとりと潤いをもたらす施設であることが必要です。

市ではより豊かな教育環境づくりを進めるために、校舎の増改築や施設の改善をはじめ、教室の整備拡充、学習指導方法の多様化に対応できる多目的スペースの導入、彫刻や壁画等の文化性を取り入れた質的整備、屋内運動場や水泳プールの増改築など、毎年計画的に進めています。このほか、教育の適正化を図るための過大規模校の分離新設についても、鋭意取り組んでいます。

平成元年度は、東野中学校で体育館を

中心とした複合施設が完成しました。これは敷地の有効利用を図るため、体育館の改築に合わせて、柔剣道場やミーティング室、更衣室、便所などを備えたクラブハウス等も同時に整備し、2階建の建物の中に複合化したものです。地域ぐるみで、たくましく、心豊かな児童生徒を育成するための総合的な体育施設として、今後もこのような複合施設の建設を進め

ることにしています。

また、五福小学校の校舎等の全面改築に合わせて、五福地区を中心とした旧市街地の活性化を図るため、かねて地域住民の強い要望であった生涯学習施設、コミュニティ施設、さらには住民と一体となった街づくりの拠点施設などを地域開発センターとして学校と一体的に整備し、その相互利用を図ることにしています。



東野中学校体育館

多目的スペースを利用した授業風景(池上小学校)



Human City くまもと
社会教育

市民が気軽に利用できる教育ネットワークづくり

生涯学習のまちづくり

「生涯学習のまち」をめざして取り組んできた生涯学習モデル事業は、2年目を迎えました。公民館を中心に地域を挙げての学習発表会、全市民的市民芸術文化祭などが開催され、市民のつどいの場は生涯学習の理解と関心に大いに役立っています。

社会教育施設

●市立公民館

各地域の市民センター(西部、南部、東部、龍田、託麻、幸田、清水、秋津、大江)内に併設する公民館と中央公民館を合わせて現在、公民館は10館になりますが、平成2年度には「北西部市民センター(仮称)」に11館目の公民館が開設の予定になっています。

また、五福小学校の改築にともない、

複合施設として「地域開発センター(仮称)」の建設が進められていますが、この中に公民館を併設することにしています。これが出来ると全国的には、まれな施設になります。

●市立図書館

本館は大江6丁目の文教地区にあり、8ヵ所の公民館に分館を置いています。1階は一般貸出し、閲覧、児童、お話コーナー、参考資料室、身体障害者福祉室、2階には集会室、ホール、視聴覚ライブラリーなど近代的図書館機能を備え、多数の市民が利用しています。

●博物館

熊本城内にある博物館には、自然人文、理工科学関係資料総数1万千余を展示し、西日本一の規模を持つプラネタリウムも併設しています。また、資料収集や調査

市民のつどい
(大江公民館)



研究を行うほか、「星をみる会」等各種教室の開設、特別展を開設するなど、総合博物館としての機能を備えています。

青少年教育及び対策としては、金峰山の中腹にある「金峰山少年自然の家」や青年会館(総合体育館と併設)を拠点として、少年の健全育成、青少年指導者技術講座の開設、青年リーダー養成など行っています。このほか、児童育成クラブの開設、青少年補導センターの充実、サンアントニオ市、桂林市への高校生友好訪問団の派遣など国際交流にも力を入れています。

北西部市民センター(仮称)完成予想図





市民美術展

地域の伝統と個性を生かし、 更に充実させるために

市内指定文化財

	国指定	県指定	市指定
建造物	3	11	18
美術工芸品	9	53	11
無形文化財	—	3	—
無形民俗文化財	—	1	3
史跡	3	5	22
史跡名勝	1	2	—
天然記念物	5	—	3
計	21	75	57

熊本城をはじめ、水前寺成趣園、千金甲古墳など、本市には歴史に培われた多くの文化遺産が大切に保存され、訪れる人びとに感銘を与えています。重要文化財である熊本城宇土櫓は昭和60年10月に修復に入り、平成元年に完成し、新たな装いで10月には一般公開がされました。

また、横井小楠、徳富蘇峰・蘆花など郷土ゆかりの先哲の顕彰と明治の文豪夏目漱石、小泉八雲の文学遺跡の保存にも努めています。

一方、文化施設である博物館をはじめとして、美術館、市民会館、産業文化会館、青年会館などでは、市民の各種文化活動や専門家による優れた芸術活動が展開されており、熊本の文化の向上に大きな力となっています。

平成2年4月には総合婦人会館・カルチャーセンターが開館しますが、婦人の文化活動の拠点として幅広い利用が期待されています。

市制100周年の平成元年には、市民の文化志向を高揚するために、はじめて市民美術展を熊本市総合体育館・青年会館で開催したほか、シンポジウムや講演会なども実施し、文化都市を標榜するにふさわしい状況をつくりだすことになりました。

このような都市文化の背景のもと、さらに文化財を愛護する気持ちを育てるとともに、地域に根ざした個性ある市民文化の育成振興に努めています。

熊本城宇土櫓

Human City くまもと
地域文化



ぬくもりのある福祉と市民による健全な街づくり

体育・スポーツは、健全な心身の発達を促し、人間性豊かな、健康で文化的な生活を営み、活力ある都市づくりを進めるうえで極めて重要な役割を果たしています。

本市では「21世紀へ向けての明るく豊かな健康、文化都市づくり」を目指し、体育スポーツを生涯を通した健康文化活動としてとらえ、その実現を図るための総合的な施策の推進に努めています。

スポーツ施設等の整備拡充

市民のスポーツ・レクリエーションの拠点として、公園機能を備えた浜線健康パークをはじめ、陸上競技場、武道場、庭球場、体育館並びに新装された水前寺野球場など多くのスポーツ施設などがあります。また、現在も川尻地区及び西部地区に健康文化施設を建設中です。

さらに、今後市民が日常生活の中で、いつでも気軽に利用できるような健康文化施設の整備拡充と効果的利用の促進に努めていきます。

スポーツ活動の振興

市民総参加として定着している市民体育祭や市民マラソン大会などの各種行事

を高一層推進するとともに、ミニバレーボール大会など地域に根ざしたスポーツ文化活動の促進、高齢者スポーツの普及振興など、市民総スポーツ活動の推進に努めています。

このほか社会体育組織の充実や指導者の養成・確保にも力を注いでいます。



浜線健康パーク

Human City くまもと
健康文化



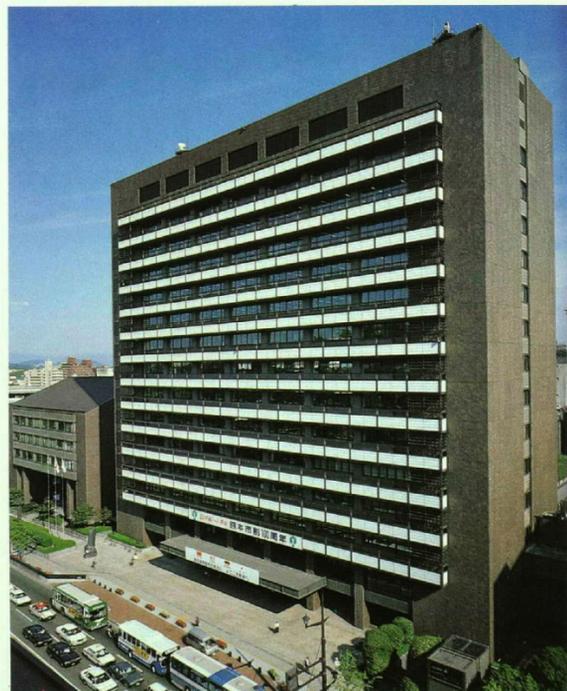
総合体育館・青年会館



左から柏尾誠之助役、田尻靖幹市長、御厨一熊助役、大崎誠則収入役

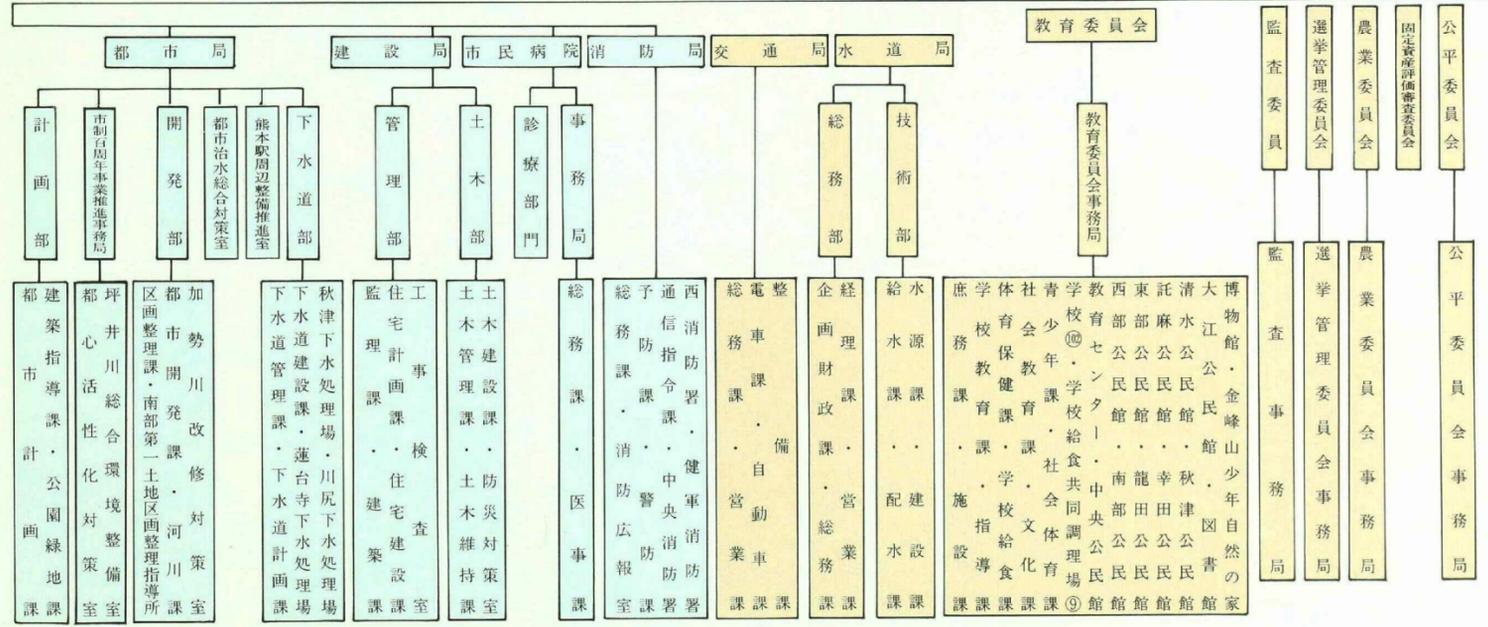
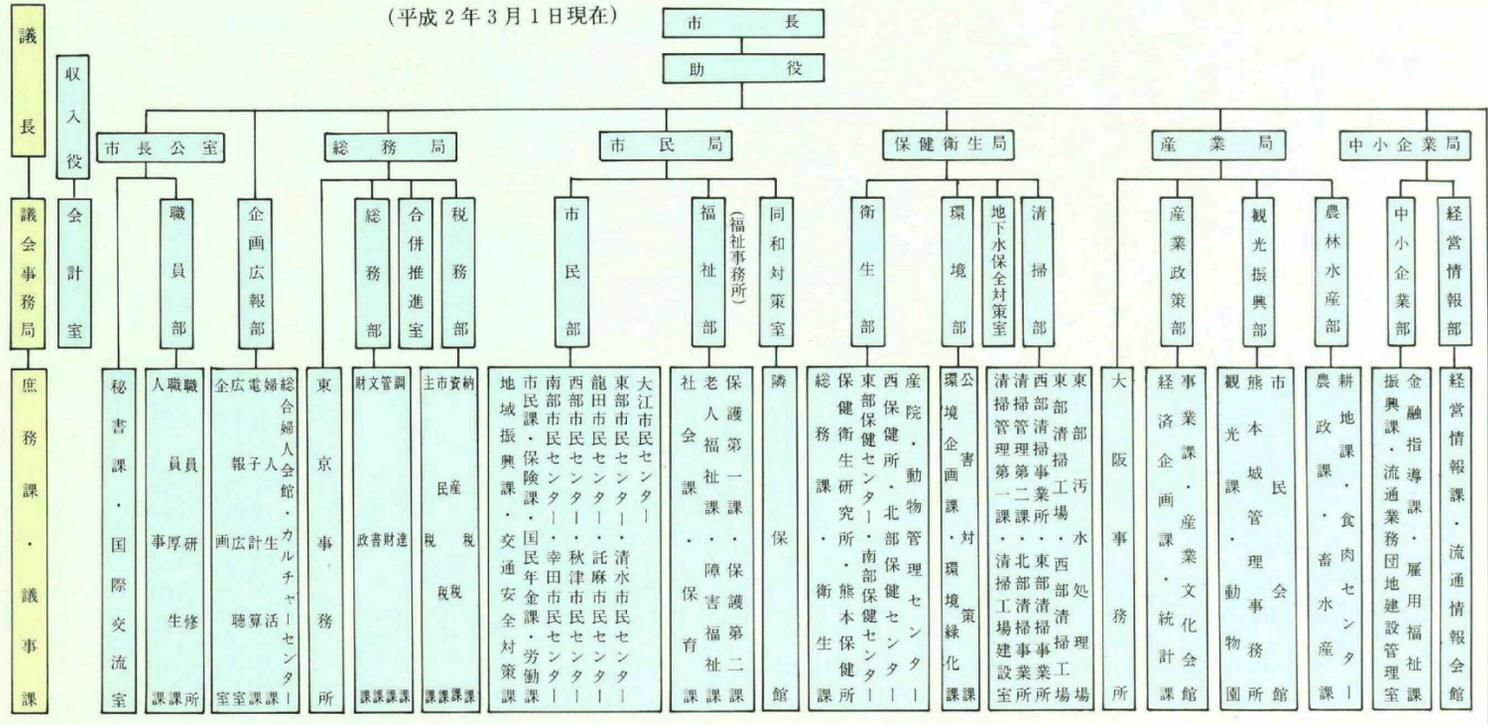
●歴代市長

代	氏名	就任年月日	退任年月日
第1代	杉村大八	明治22. 5. 6	明治26. 7. 9
2	松崎為己	" 26. 9. 15	" 30. 8. 2
3	辛島格	" 30. 9. 13	大正 2. 1. 20
4	山田珠一	大正 2. 4. 2	" 3. 10. 10
5	依田昌一	" 4. 1. 14	" 6. 9. 3
6	佐柳藤守	" 6. 11. 20	" 10. 11. 19
7	高橋知己	" 11. 1. 19	" 14. 7. 13
8	山田珠一	" 14. 9. 14	昭和 4. 7. 4
9	山隈康一	昭和 5. 2. 5	" 9. 4. 17
10	山平野龍	" 9. 5. 14	" 17. 5. 13
11	石坂繁	" 17. 6. 25	" 20. 8. 10
12	福田虎	" 20. 10. 4	" 21. 3. 11
13・14	福田真	" 21. 6. 14	" 23. 2. 9
15	佐藤真	" 23. 4. 7	" 27. 3. 7
16	林田正	" 27. 3. 21	" 31. 2. 23
17・18	坂口主	" 31. 3. 16	" 38. 1. 4
19・20	石坂繁	" 38. 2. 15	" 45. 11. 26
21~24	星子敏	" 45. 12. 20	" 61. 12. 6
現市長	田尻靖幹	" 61. 12. 7	在任中



熊本市行政機構図

(平成2年3月1日現在)



Human City くまもと
市議会

市議会は、市民から選ばれた議員52名で構成されています。会派としては、自民党（17名）、公明党（8名）、社会党革新クラブ（8名）、市民クラブ（7名）、共産党（3名）、政策集団・二十一世紀クラブ（3名）、民社党（2名）、熊本クラブ（1名）、市政クラブ（1名）、くまもと千人クラブ（1名）、自民無党派（1名）の11会派が結成されています。

会議は、年4回開かれる定例会と必要がある場合に開かれる臨時会があります。内部の審査機関としては、常任委員会と特別委員会があります。常任委員会は総務・教育民生・保健衛生・経済・建設・公営企業の6委員会に分かれ、所管部門の事務を調査し、議案・陳情などの審査を行います。特別委員会は必要に応じて議会の議決により設置されますが、付議された事件を審査するもので、現在、議会運営・総合都市調査・環境整備・熊本市政治倫理条例制定に関する調査の各特別委員会があります。



矢野昭三議長



佐藤公平副議長

●歴代市議会議員

代	氏名	就任年月日	退任年月日	代	氏名	就任年月日	退任年月日	代	氏名	就任年月日	退任年月日
1	有馬源内	明治22.4.26	明治24.1.21	13	佐藤真佐男	昭和22.6.9	昭和23.4.7	25	落水清	昭和46.5.20	昭和48.6.6
2	興津景章	" 24.1.22	" 28.5.13	14	大塚勇次郎	" 23.6.5	" 26.4.29	26	古川国雄	" 48.6.6	" 50.4.30
3	河原惟親	" 28.5.14	" 31.5.22	15	大塚勇次郎	" 26.5.15	" 30.4.30	27	紫垣正良	" 50.5.16	" 52.6.4
4	吉永為己	" 31.5.23	" 36.2.5	16	兼坂安次	" 30.5.21	" 34.4.8	28	上田堅太	" 52.6.4	" 54.4.30
5	山田珠一	" 36.2.6	" 37.4.30	17	打出信行	" 34.6.12	" 36.3.24	29	島永慶孝	" 54.5.14	" 56.12.8
6	吉永為己	" 37.5.27	大正2.4.30	18	寸坂幸夫	" 36.3.24	" 38.4.30	30	藤山増美	" 56.12.8	" 58.4.30
7	林千八	大正2.5.10	" 6.4.30	19	阿部次郎	" 38.5.18	" 40.3.18	31	宮原光男	" 58.5.18	" 60.9.6
8	山隈康	" 6.5.15	" 10.9.30	20	井上常八	" 40.3.18	" 40.12.7	32	大石文夫	" 60.9.6	" 61.12.15
9	迫源次郎	" 10.10.14	" 14.9.30	21	石井辰雄	" 41.7.4	" 42.4.30	33	内田幸吉	" 61.12.15	" 62.4.3
10	山隈康	" 14.10.12	昭和9.5.7	22	阿部次郎	" 42.5.20	" 43.7.3	34	西村建治	" 62.5.22	" 63.12.16
11	平野龍起	昭和9.5.8	" 17.6.14	23	坂梨日露	" 43.7.13	" 45.12.4	35	村上春生	" 63.12.16	平成2.3.26
12	佐藤真佐男	" 17.7.23	" 22.4.29	24	黒田弥一郎	" 45.12.4	" 46.4.30	36	矢野昭三	平成2.3.26	在任中

●歴代市議会副議長

代	氏名	就任年月日	退任年月日	代	氏名	就任年月日	退任年月日	代	氏名	就任年月日	退任年月日
1	下田一直	明治22.4.26	明治24.1.21	16	平野龍起	昭和4.10.12	昭和9.5.7	31	岩尾恵富	昭和44.9.13	昭和46.4.30
2	下田耕造	" 24.1.22	" 31.5.22	17	橋本寿七	" 9.5.8	" 17.5.20	32	阪本富	" 46.5.20	" 48.6.6
3	片山甚十郎	" 31.5.23	" 32.2.7	18	西郷一恵	" 17.6.11	" 22.4.29	33	荒木昇	" 48.6.6	" 50.4.30
4	林定男	" 32.2.8	" 36.2.5	19	大塚勇次郎	" 22.6.9	" 23.6.5	34	藤山増美	" 50.5.16	" 52.6.4
5	出田彦太郎	" 36.2.6	" 36.2.11	20	加川恒次	" 23.6.5	" 26.4.29	35	矢野昭三	" 52.6.4	" 54.4.30
6	園部交雅	" 36.2.12	" 36.5.11	21	北利民	" 26.5.15	" 28.9.5	36	上妻重蔵	" 54.5.14	" 56.12.8
7	板垣正軌	" 36.5.12	" 37.2.12	22	上野勉	" 28.9.25	" 30.4.30	37	田尻武男	" 56.12.8	" 58.4.30
8	有働格四郎	" 37.2.13	" 40.11.4	23	森光吉	" 30.5.21	" 32.12.28	38	白石正	" 58.5.18	" 60.9.6
9	板垣正軌	" 40.11.14	" 42.1.27	24	吉村貞次	" 34.6.12	" 35.3.21	39	北口政義	" 60.9.6	" 61.12.15
10	河田巖	" 42.1.28	大正2.4.30	25	坂梨日露	" 35.3.21	" 37.7.9	40	吉村本	" 61.12.15	" 62.4.30
11	井場熊喜	大正2.5.10	" 6.4.30	26	吉村貞次	" 37.7.9	" 38.4.30	41	竹本勇	" 62.5.22	" 63.12.16
12	映謙	" 6.5.15	" 7.3.10	27	石井辰雄	" 38.5.18	" 41.7.4	42	村上裕人	" 63.12.16	平成2.3.26
13	藤野乱	" 7.3.11	" 10.9.30	28	吉村貞次	" 41.7.4	" 42.4.30	43	佐藤公平	平成2.3.26	在任中
14	水上誠規	" 10.10.14	" 14.9.30	29	佐藤寿子	" 42.5.20	" 44.3.24				
15	河田巖	" 14.10.12	昭和4.9.30	30	古川国雄	" 44.3.25	" 44.6.28				

●市議会議員（平成2年3月26日現在）

氏名	会派	氏名	会派
矢野昭三	自民党	井上義治	社会党革新クラブ
佐藤公平	市民クラブ	吉田精一	"
落水清	政策集団・二十一世紀クラブ	角田勝浩	公明党
下田耕士	くまもと千人クラブ	中沢誠	"
奥田光弘	熊本クラブ	中村徳生	自民党
鈴木昌彦	民社党	竹本勇	"
家入安弘	社会党革新クラブ	鳴田幾雄	"
松江昭	"	大石文夫	"
磯道徳	公明党	村上裕人	"
西泰史	"	西村建治	市民クラブ
諸熊文雄	自民党	西田統	"
吉見輝雄	"	岩下恵治	共産党
荒木あきひろ	自民無党派	森田粹彌	社会党革新クラブ
江藤正行	自民党	佐々木亮	公明党
内田三千夫	市民クラブ	田尻武男	自民党
山内光昭	"	紫島永慶	"
益田牧子	共産党	村上春生	"
河上洋子	社会党革新クラブ	宮原光男	"
竹口博己	公明党	藤山増美	市民クラブ
亀井省治	"	白石正	政策集団・二十一世紀クラブ
荒木哲美	自民党	村山義雄	"
主海偉佐雄	"	沢田一郎	共産党
伊形寛治	市政クラブ	塩沢臨	社会党革新クラブ
藤本栄次	自民党	中山弘規	"
宮原正一	市民クラブ	西野法久	公明党
本田光夫	民社党		

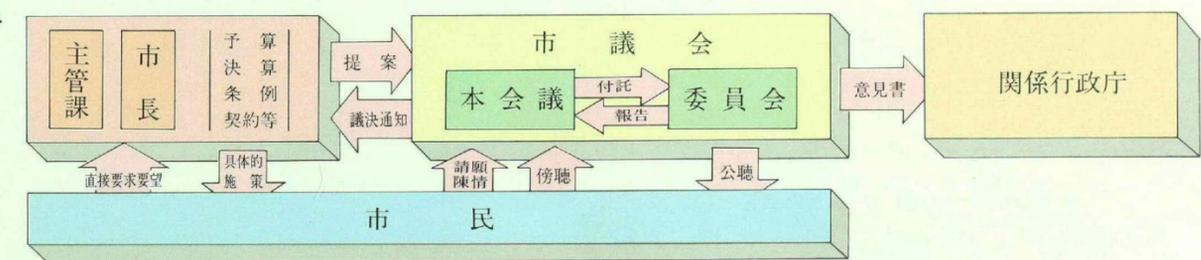


議場

●常任・特別委員会（平成2年3月26日現在）

名称	定数	所管事項
総務委員会	9	市長公室、企画広報部、総務局、会計室、消防局、選挙管理委員会、監査委員、公平委員会の所管に属する事項、他の常任委員会の所管に属しない事項
教育民生委員会	9	市民局、教育委員会の所管に属する事項
保健衛生委員会	8	保健衛生局の所管に属する事項
経済委員会	9	産業局、中小企業局、農業委員会の所管に属する事項
建設委員会	9	都市局、建設局の所管に属する事項
公営企業委員会	8	水道局、交通局の所管に属する事項
議会運営特別委員会	12	議会運営に関する事項についての審査
総合都市調査特別委員会	13	都市圏、都市整備及び国際化に関する調査
環境整備特別委員会	13	自然環境、都市景観及び観光政策に関する調査
熊本市政治倫理条例制定に関する調査特別委員会	13	熊本市政治倫理条例制定に関する調査

●市議会のしくみ

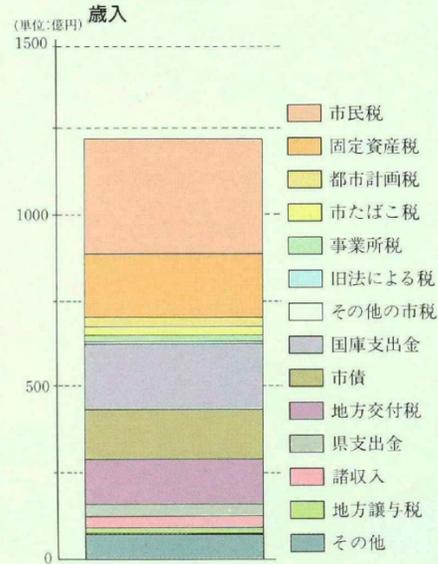


本市をとりまく財政環境は、シャープ勧告以来といわれる税制改革にともない、大幅な財源構造の変化に直面するとともに、一方では、国庫補助負担率の削減が継続されることや、都市化の進展、市民意識の多様化のもと行政需要が量的に増大し、質的に多様化する傾向もあって、依然として楽観を許さぬ厳しい現状にあります。

このような状況のなかで、本市の平成元年度予算は市制100周年の成功をはじめ、これを契機として、活力に満ち思いやりあふれる新しいふるさとを意欲的に築きあげるべく、積極的な予算編成を行っています。

その主な内容は、まず第一に「市制100周年への対応」です。春のオープニングセレモニーに始まり、市民の共感と参加を基調とする多彩な記念イベントを繰り広げ、記念事業、記念制度として地下駐車場の建設着手、市民各位の善意に基づく人づくり基金の創設等に取り組むものです。

●平成元年度当初予算(一般会計)構成比
総額 1,122億円
歳入



第二に「地域経済の活性化」です。「熊本地域経済活性化構想」並びに「熊本市中小企業振興ビジョン」を踏まえ、中小企業の振興育成、観光の活性化、都市農業の振興等を図るとともに、公共投資の地域経済活性化にもたらす効果に留意し社会資本の整備に取り組むものです。

第三に「変革の時代への対応」です。まず、国際化の進展に呼応し、友好都市桂林市、姉妹都市サンアントニオ市、永年友好関係にあるハイデルベルグ市との交流の一層の充実を図ります。また、ハイビジョン等新たなメディアの活用に関する調査研究を進める等、高度情報化に対応していくとともに、総合婦人会館・カルチャーセンター(仮称)建設等、婦人の地位向上を図るべく婦人行政を展開していきます。

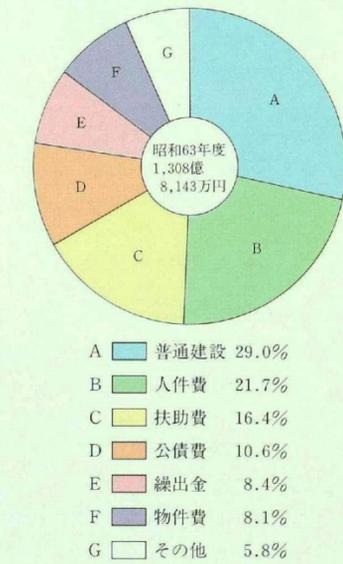
第四に「魅力ある都市環境の形成」です。63年度に制定した環境基本条例の趣旨を基にしてきめ細かな環境保全対策に取り組むことはもちろん、新たに設置した熊本駅周辺整備推進室を中心に、熊本駅

周辺の環境整備を本格的に推進し、また熊本城を中心とした坪井川周辺の総合的な環境整備に取り組むことにしています。そのほか都市治水、道路環境整備、都市景観形成そして本市のシンボルともいべき緑と水の保全創造等を図っていきます。

最後に「21世紀を支える人材の育成と思いやりあふれる地域社会の形成」です。教育環境の一層の充実向上、生活文化、スポーツ振興等を積極的に推進し、特に元年度は人の痛みのわかる地域づくりのため、菖蒲谷の精神薄弱者更生施設の建設等、精神薄弱児、精神薄弱者、身体障害者、児童母子等、各分野にわたる福祉に力を注ぐものです。

その結果、本市の当初予算は、
一般会計 122,200,000千円
(9,700,000千円 8.6%増)
特別会計 104,313,000千円
(3,670,000千円 3.6%増)
企業会計 27,913,000千円
(601,000千円 2.2%増)

●昭和63年度決算(一般会計)の状況
①性質別経費の状況



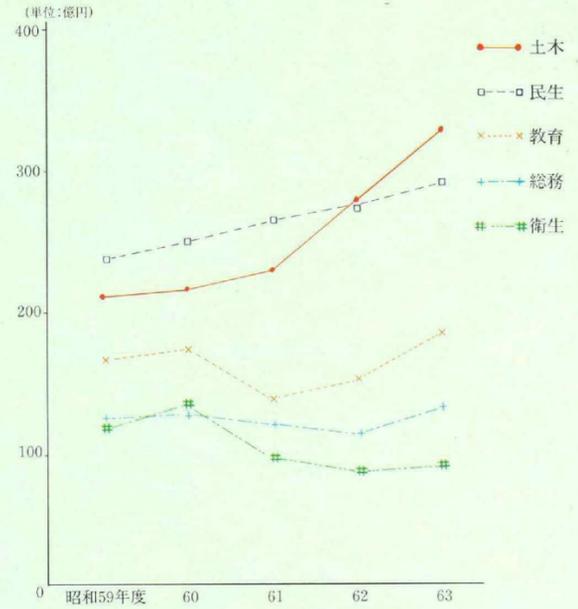
総計 254,426,000千円
(13,971,000千円 5.8%増)
となりました。

一般会計において、歳入面では、自主財源と依存財源の構成比でみると、自主財源が55.6%(前年度58.8%)となっており、うち市税が歳入総額の48.5%(前年度51.4%)を占めています。

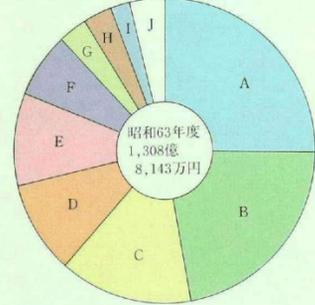
また、歳出面では、目的別にみまますと、民生費(22.9%)、土木費(19.8%)、教育費(15.4%)と市民生活に密着した科目で予算の半分以上を占めています。また、性質別には、社会資本の整備を図る投資的経費について積極的に予算を重点配分しています。

このように、厳しい財政状況下にありながらも市民生活の充実と、市政の健全な発展を一層期すべく編成した本年度予算の執行は、総合的・長期的視点に立って、経費節減、事務事業の見直しなど、より一層の創意、工夫をこらして、効果的な予算運用を図り、これまで同様健全財政の堅持に務めることとしています。

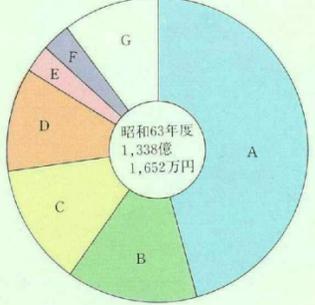
⑤主要費目行政費の推移



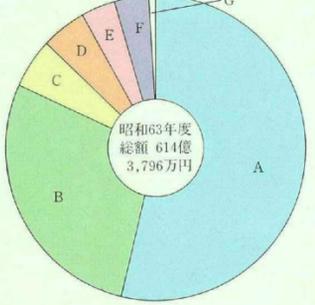
②目的別経費の状況



③歳入内訳



④市税収入の税目別内訳



平成元年度当初予算の主要概要 (単位:千円)

「市制100周年への対応」	
市制100周年実行委員会補助金	626,000
シティホール建設基本構想等策定経費	18,000
市史編さん関係経費	48,000
人づくり基金	200,000
総合婦人会館・カルチャーセンター建設事業	1,306,000
金糸猴特別展示経費	95,000
動物資料館建設事業	177,000
熊本城数寄屋丸二階御広間復元事業	231,700
地下駐車場建設事業	310,000
水前寺野球場整備事業	398,000
水道資料館(仮称)建設事業	321,552
「地域経済の活性化」	
アーバンリゾート産業振興事業	6,000
地場産業振興フェア開催経費	8,000
地場産業振興会館(仮称)調査設計経費	12,000
中小企業共同化推進事業助成	30,000
熊本市流通情報会館開館記念事業	17,500
中小企業研修事業	13,000
コンベンション特別対策経費	10,000
観光地美化トイレ建設事業	15,000
都市農業技術センター(仮称)建設準備経費	3,500
みかん実験農場ガラスハウス建設準備経費	10,000
農業用排水路整備事業	710,000
「変革の時代への対応」	
国際交流関係経費	36,225
サンアントニオ市における熊本展開催経費	30,000
アメリカサンアントニオ&中国桂林展開催経費	4,500
高校生国際交流経費	25,500
少年スポーツ国際交流事業	3,200
熊本館(仮称)建設事業	25,000
ニューメディア関係経費	49,200
ハイビジョンシティ構想推進経費	1,000
婦人行政推進経費	6,490
「魅力ある都市環境の整備」	
自然環境保全事業	105,635
水資源対策経費	69,807
緑化推進事業	185,000
緑化基本計画策定経費	7,000
坪井川総合環境整備事業	79,800
道路環境整備事業	600,000
武蔵塚公園整備事業	351,800
公共下水道築造事業	11,000,000
公営住宅建設事業	3,068,325
東部清掃工場第2期建設事業	441,311
熊本駅周辺整備事業	125,500
「21世紀を支える人材の育成と思いやりあふれる地域社会の形成」	
義務教育施設整備事業	1,116,434
格枝場整備事業	95,200
市立高校セミナーハウス等建設調査経費	5,000
児童育成クラブ設置経費	25,540
地域開発センター建設事業	305,000
熊本城三の丸地区整備基本構想策定経費	5,000
健康文化施設整備事業	595,300
在宅老人デイサービス事業	49,103
精神薄弱者更生施設建設事業	644,300

Human City くまもと
広報聴

本市の広報・広聴は、21世紀に向けて「人間味あふれる街—ヒューマンシティ」づくりのために、5つの重点施策「ポリシー5」を基に進めています。

広報活動は、この「ポリシー5」を中心とした市政に対する理解と関心を高めるとともに、市政への市民参加を進めるために適時、適切な市政情報をいろいろな広報媒体を通して提供しています。

広聴活動は、広く市民の声を聴き、市政に反映させるため、市政懇談会や市政モニター制度を活用しながら進めています。

「市政だより」などによる広報

月1回1日発行、全世帯配布、発行部数約20万部。また、弱者や目の不自由な方などのために「拡大版市政だより」「点字だより」「声の市政だより」を配布しています。

このほか、市の施策方針を紹介した「ヒューマンシティくまもと」(年1回)やその施策を具体的に紹介する「萌」(年3回)を発行し配布。

「テレビ・ラジオ」による広報

「市民のひろば・手取本町1番1号」

RKK・TV 毎週土曜日

午前9時25分～(5分間)

「こちら熊本市」

TKU・TV 毎月第4土曜日

午前8時15分～(15分間)

「みどりの街から熊本市」

KKT・TV 毎週日曜日

午前11時50分～(5分間)

「フレッシュ・フラッシュ・クマモト」

FMKラジオ 毎週火曜日

午前8時40分～(5分間)

このほかテレビスポットも随時放送します。



市政懇談会

市政懇談会

市政に対する意見や提言を聴き、市民意識を把握して、今後の市政運営に反映させます。

市政モニター

市政に対するいろいろな意見を地域別、年代別等組織的に聴き、市民の声として市政に反映させます。

モニター 約50人 研修会等開催 9回

市民相談

行政サービスの向上を図るため、市民相談窓口では多くの要望、苦情などを迅速に対応し処理している。また、特別相談として、専門相談員による法律、税務、登記、人権などの相談を行っています。

市政相談年度別受付件数

昭和59年度	昭和60年度	昭和61年度	昭和62年度	昭和63年度
1,284件	1,261件	939件	903件	774件

特別相談利用状況 (昭和63年度)

法律相談	サラ金(苦情)相談	登記相談	人権相談	税務相談	建築相談
709件	651件	407件	326件	273件	2件



施設めぐり



市政番組の収録

市民のくらし

平成元年

 世帯人口 1世帯当り2.8人	 人口密度 1km ² に3,357人	 出生 1日につき12.9人	 死亡 1日につき5.6人
 結婚 1日につき9.9組	 離婚 1日につき2.6組	 転入 1日につき99.2人	 転出 1日につき95.7人
 乗用自動車(軽自動車を含む) 1世帯に0.7台	 犯罪 1日に25.3件	 交通事故 1日に12.1件	 市職員 市民96.8人に1人
 火災 1日に0.42件	 水道使用料 1日1人あたり258ℓ	 ごみ収集量 1日に691トン	 市税 市民1人当り117,042円
 消防職員 市民 996人に1人	 市の予算 市民1人当り235,183円		